

## 献 辞

商学部は、来る2015年度（平成27年度）に、1965年（昭和40年）の設置から数えて、50周年を迎えようとしております。この節目の年を間近にひかえた2013年度をもって、大西勝明教授、奥村紀夫教授、そして奥村輝夫教授の3先生が古希を迎えられ、本学を定年退職されることとなりました。

大西勝明教授は、1962年（昭和37年）3月に徳島県立池田高等学校を卒業され、その年の4月専修大学商経学部商業学科に入学されました。そして、4年次生になった1965年（昭和40年）4月に設置された商学部へ所属変更され、1966年（昭和41年）3月に商学部商業学科としては初めての卒業生の一人となりました。その後専修大学大学院経済学研究科修士課程および博士課程に進学され、単位の取得をされた一方、1968年（昭和43年）5月からは、専修大学商学部助手となられ、1972年（昭和47年）4月から商学部専任講師として奉職されました。1975年（昭和50年）に助教授、1981年（昭和56年）に教授に昇格されました。2001年（平成13年）9月から商学部長を2期4年務められました。また、1998年（平成10年）4月から商学研究所長も務められ商学部の発展にご尽力されました。特に大西教授は、「ミスター・セメスター」と異名がつくほど、他学部にさきがけて商学部の専門科目にセメスター制を導入（2000年度）するにあたり、学部内外での調整にご尽力されたことは、われわれの記憶にも新しいところです。大西教授の主要担当科目は、「企業論」ですが、長年の研究の成果を集大成させ、特に第二次世界大戦後の日本情報産業の動向を分析した『日本情報産業分析 - 日・韓・中の新しい可能性の追究 -』（2011年10月、唯学書房）により、博士（商学）の学位を取得されました。

私事ながら、大西先生は、小生が1974年（昭和49年）に専修大学商学部会計学科に入学した際に所属した2組のクラス担任を受け持たれました。大西先生にとっては初めてのクラス担任であったと思いますが、入学して間もない時期に、先生はクラスのメンバーを秋川渓谷に遊びに連れて行ってくださいました。

奥村紀夫教授は、東京都新宿区のご出身で、大西勝明教授と同じく1966年（昭和41年）3月に商学部商業学科の初めての卒業生の一人となりました。その後直ちに専修大学大学院経済学研究科修士課程に進学され、同大学院博士課程の単位を1971年（昭和46年）に取得された後、同年4月から青森大学経営学部専任講師として赴任されました。そして、1977年（昭和52年）4月から専修大学商学部専任講師として、母校の教壇に立たれました。その後1981年（昭和56年）4月に助教授に昇格され、2005年（平成17年）に教授へと昇格されました。学内の役職として、学生部委員、就職指導委員会委員および二部教務委員会委員等を務められました。奥村先生のご研究の主要な関心は、会計上の価値概念の領域であり、実現概念、所有者にとっての価値概念、物価変動、公正価値概念といった切り口から、主にアメリカの会計理論と会計実務を歴史的アプローチによって分析されてこられました。

私事ながら、小生は、これまで奥村先生とは、研究手法が共通することもあり、学会でご一緒する機会が多く、昼間の研究報告ばかりでなく、学会後の反省会（飲み会）にもよくお伴させていただきました。共通する領域は、学会ばかりでなく、スポーツ（スキー）がありました。志賀高原や山形蔵王には、一体何度ご

一緒したことでしょう。

奥村輝夫教授は、1962年（昭和37年）3月に東京都立竹早高等学校を卒業され、その年の4月明治大学経営学部経営学科に入学されました。その後、明治大学大学院商学研究科修士課程および博士課程に進学され、1973年（昭和48年）4月から富士短期大学での兼任講師を務められたことを皮切りに、大学での研究教育の道に入られました。そして、1979年（昭和54年）4月から専修大学商学部専任講師となりました。1981年（昭和56年）4月に助教授、そして1990年（平成2年）4月から教授に昇格されました。役職として学生部委員、就職指導委員会委員および入学試験委員会委員等を務められたほか、会計学研究所長や松原成美先生が学部長をされた際には、カリキュラム委員長としての手腕を発揮されました。

奥村輝夫先生は、原価計算論の研究がご専門で、特にドイツの原価理論にかかわる研究を中心に取り組まれました。また教育関連分野で多くの著作・論文も著されました。学会活動に関連して、日本簿記学会では、「工業簿記に関する勘定科目の研究」の主要メンバーとしてかわりをもたれました。さらに先生のゼミナールからは、公認会計士や税理士といった職業会計人が多く巣立ちました。本年度も先生のゼミに在籍する4年次生が公認会計士試験に見事合格いたしました。

私事ながら、小生は、専修大学商学部助手として奉職した際の頃、会計学研究所の書庫で右往左往して心細くしていた時に、奥村先生がお声をかけて励ましてくださったことをよく覚えております。

2014年（平成26年）3月をもって定年退職をされる3先生は、ちょうど専修大学商学部が産声を上げた1965年（昭和40年）頃に大学生時代を過ごされて、その後は商学部と共に歩んでこられました。いわば、先生方は商学部のほとんどすべてをご存じというわけであります。是非、この後も引き続き商学部を見守り続けていただき、われわれに必要な叱咤激励をお願い申し上げます。

2014年1月吉日

商学部長 佐々木 重人